

地域活動に明確な目的をもちましょう

どのような地域にしたいのか、何を伝え残していきたいのか、何のための活動かを明確にしましょう。そして「予算があるから」「役所に急かされるから」の活動から脱却し、地域の暮らしに根ざした活動に重点を置きましょう。

地域活動の最終的な目的は「人づくり」であり「人間関係づくり」です。そのための手段をじっくり考えましょう。

これまで私たちの暮らしを支えてきたコミュニティは、本当に私たちが望んだ姿でしょうか。日本社会は経済活動に邁進するあまり、すっかり生活基盤の中心であるコミュニティを置き去りにしてきたのではないのでしょうか。以前なら当たり前に行なわれていた夏祭りや、ご近所同士で子供たちが遊ぶのを見守りながらの井戸端会議などの風景が消えてしまいました。都市部では高層マンションが建ち並び、積極的に近隣住民と関わらない人々が増えてきています。また中山間地では限界集落が数多く存在し、コミュニティの存続基盤が非常に脆弱なものになっています。

私たちは次の世代にどんな社会を残せるのか、引き継ぎたいのか。例えば、まちの文化や伝統を伝えたい。この町の景観は残して伝えたい。このような暮らしに根ざした具体的な地域課題を念頭に目的を設定しましょう。

そして、人間関係の大切さを再評価し粘り強く「人間関係づくり」を進めましょう。

提言の背景となった事業

- ・ 第37回新潟JCフォーラム「地域の課題は自分たちで解決する」
～新しい地域コミュニティの姿を目指して～

地域コミュニティの現状と日本社会の人口などの予測から地域を取り巻く環境が急速に悪化することが懸念されます。過疎や高齢化を前提としながら行政では解決出来ない複雑な地域課題を、地域で支え合う人間関係づくりを通して対処していく必要があります。